

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2013年6月号 通巻54号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

意外と気まぐれなタヌキの行動

センサーカメラでわかった行動の詳細



[左]2頭が同時に写った唯一の写真。

[中]フェンスの下をくぐり抜けた瞬間。尾だけが写っている。

[右]狭い通路でUターン中。

今回は今年2月に調布市でセンサーカメラを2週間設置した時のことを紹介します。設置時には特に珍しくもない状況だと思っていたのですが、撮影結果からは非常に有益な情報が読み取れたのでした。

狭い通路を通り抜けるタヌキ

センサーカメラを設置した場所は、両側をフェンスにはさまれた、タヌキ1頭が歩けるほどの幅しかない通路でした。これならば確実にセンサーが反応するはずですが、2台のセンサーカメラは撮影範囲が重ならないように設置しました。撮影結果を見ると、一方で何も写っていませんでした。つまりセンサーカメラは正常に作動していたのです。何も写らなかったのは、タヌキが早足で通過してしまったからなのです。実はここはためふん場でもあったのですが、停止したとしても時間はかなり短いようです。ただ、一方のセンサーカメラが反応しなかった場合

が40%ほどもありました。これはちょっと多すぎる失敗数です。実際はタヌキがUターンして戻ってしまったために一方しか反応しなかったのかもしれませんが。

それぞれの写真データの時刻を表に書き出していったところ、タヌキはほぼ毎晩ここを通過していました。冬は活動が不活発になると推測していたのでこれは意外な結果です。この場所は周囲の地勢から推測すると大幅な近道になっているようで、必ず通過しなければならないような場所だったのでしょう。

同時に写真に写っていたのは最大2頭で、時期的にもおそろくつがいと考えられます。ただ、同時に写っていたのはたったの1枚だけでした。つがいは必ずしもぴったり並んで行動するのではなく、別々に行動することも珍しくはないことがわかります。このことは、これまでの目撃情報の集計でも目撃頭数の大半が1頭のみであることから推測できていました。

予測不能なタヌキの行動

タヌキが通過した時刻は20時～翌6時までばらばらでした。一晩の通過回数も1回から8回までとこちらもばらついています。誤解されやすいことですが、タヌキは毎日同じ経路を同じ時刻に巡回しているのではありません。その日の食べ物の手量や気分、季節によって経路も時刻も変化します(これがタヌキの観察を困難にしている理由です)。

今回のように、特定の一点をタヌキが通過しなければならない場所はセンサーカメラにとって都合がいい場所です。センサーカメラを設置する時は、なるべくこのような狭い場所を選ぶのが原則です。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>